

令和 6 年度社会貢献事業のご紹介

千葉県立保健医療大学では、県民・地域住民を対象に研究成果等を広く還元することや、生活の場における健康づくりを支援することを目的にした社会貢献事業として、公開講座とほい大健康プログラムを毎年開催しています。

公開講座 子どもから高齢者まで、健康な未来へ。 令和 6 年10月13日

令和6年度の公開講座は、「健康な未来へ」をメインテーマとして10月13日(日)に開催しました。看護学科・栄養学科・歯科衛生学科・作業療法学科の4つの学科専攻の教員により、子どもや若い世代の健康から高齢者の健康、老後どう生きたいかまでを考える豊富な話題が提供されました。生まれる前から死ぬまでの一生の健康を見据えたライフコースアプローチの視点は、日本が国の政策としても進めているところです。具体的なテーマなどについては、大学ホームページにある公開講座のページに掲載されているので是非ご覧ください。

公開講座講演の様子 ▶



ほい大健康プログラム 学生ボランティアが大活躍！

ほい大健康プログラムでは、UR 都市機構やいすみ市、本学歯科診療室と連携して介護予防プログラムを実施しました。大学ならではの強みとして、各プログラムに学生ボランティアが参加することが挙げられます。核家族化の拡大や地域での世代間交流の場が減っている昨今、参加者には学生と交流することができる場を非常に喜んで頂いています。学生にとっても、実際に地域の方とお話することで普段の学びが深まり、健康づくりの専門家を目指すことへの自覚を強める機会になっています。嬉しい相乗効果です。

▼ 楽しくエクササイズ体験



▼ 学生による健康チェック



千葉市 UR 団地	令和6年	10月12日 11月9日
いすみ市	令和6年	11月2日、23日
歯科診療室健康教室	令和7年	1月25日、2月15日

アンケート お願い 広報誌についてご意見をお送りください。

本広報誌は、大学の日頃の活動をお伝えするために発刊することになりました。Ver.2は、留学生との Exchange Meeting や研究に関するメディア掲載の紹介等の記事を掲載いたしました。今後、広報誌をより充実した内容にしたいと、読者のご意見をお聞かせいただきたく、お願い申し上げます。二次元バーコードから「広報誌アンケート」にアクセスして回答してください。氏名やメールアドレスなど回答者の個人を特定する情報は取得いたしません。どうぞ貴重なご意見をお聞かせいただきますようお願いいたします。



ほいだい



マヒドン大学(タイ王国)留学生との Exchange Meeting を開催しました！

2024年8月7日、千葉大学西千葉キャンパスにて、タイ王国のマヒドン大学からの留学生(6名)と本学学生(15名)との Exchange Meeting (国際交流会)を開催しました。アイスブレイクでは、リハビリテーション学科作業療法学科専攻の学生を中心とした、ノンバーバルコミュニケーション(言語に依らないコミュニケーション)で一気に関わり合いを盛り上げ、続いて各学科専攻の学びの紹介・発表やレクリエーション(フルーツバスケット、以心伝心ゲーム、イラスト伝言ゲームなど)を楽しみました。

栄養学科学生による「だし」を用いたレシピ紹介や歯科衛生学科学生による「歯ブラシの持ち方講座」もあり、英語と日本語を交えての会話やレクリエーションを通して、互いに異文化理解を深めることができました。グループに分かれてのフリートークでは、同年代の学生同士ということもあり、好きなアーティストやアニメ、キャラクターの話などで大いに盛り上がり、マヒドン大学の学生と連絡先を交換している様子も見られるなど、現在も交流が続いていることを期待しているところです。最後に記念撮影をして、約1時間半のイベントは終了となりました。終了時刻後もお互いに離れがたく、教室に残って交流している様子が見られ、引率した教員にとっても楽しい経験となりました。参加学生からは、楽しく色々なことを学べた、言語の壁を低く感じるようになった、勉学の意欲が高まった、などの声が聞かれており、大変有意義な国際交流会になりました。



研究に関するメディア掲載のご紹介 若年女性の痩身願望とプレコンセプションケア



健康科学部栄養学科の谷内洋子(ヤチヨウコ)教授が取り組んでいる、若年女性の痩身願望とプレコンセプションケアに関する研究について、取材を受ける機会がありましたので、その内容についてご紹介いたします。

近年の日本において、低出生体重児が先進諸国の中でも極めて多いことが問題視されています。低出生体重児は将来、肥満や糖尿病など生活習慣病発症リスクやうつ病などの精神疾患など、様々な疾患に罹患するリスクが高くなることが国内外の研究において示唆されていることから、児の将来の健康を守るため、国をあげての低出生体重児を減らす取り組みが検討されているところです。日本で低出生体重児が多い原因のひとつとして、若い女性(出産可能年齢女性)のやせ(BMI<18.5)が多いこと、妊娠中の体重増加不良が指摘されています。体重増加が必要な妊婦まで巻き込んだ日本の若い女性の「痩身願望」は、「やせているほうがより魅力的である」という社会的風潮や、その価値観を含む文化社会的背景が影響していると考えられています。「やせている」ことのネガティブな側面、特に妊娠・出産の場面でその影響が赤ちゃんの将来の健康にも及ぶ可能性については、まだ広く認知されていません。健康的な体型について、女性だけでなく社会全体で考えることで、次世代の健康が守られるような社会になって欲しいところです。

なお、本記事は大学 HP 掲載中の内容の一部をご紹介しますので、プレコンセプションケアの概念も含めて、詳細は大学 HP にアクセスして是非ご覧ください!!

大学 HP に掲載中の記事はコチラ →
<https://www.pref.chiba.lg.jp/hoidai/mediakeisaijyohou.html>



研究に関するメディア掲載等の情報について
千葉県立保健医療大学
www.pref.chiba.lg.jp



年間スケジュール

- 4月 入学式
- 前期授業
- 7月 オープンキャンパス
- 8月 前期定期試験
- 夏期休暇
- 10月 後期授業
- 大学祭(いずみ祭)
- 2月 後期定期試験
- 国家試験
- 3月 卒業式



※令和7年度オープンキャンパスは令和7年7月19日・20日に実施予定です。



学科行事のご紹介 リハビリテーション学科 ホームカミングデー開催報告

令和6年10月、本学リハビリテーション(以下、リハ)学科にて初めてのホームカミングデーを幕張キャンパスで開催しました。本イベントは、理学療法専攻および作業療法専攻の卒業生と教員が一堂に集い、臨床教育やキャリア形成の現状を共有し、今後の卒後教育の方向性を検討することを目的に実施されました。ニーズ調査を目的とした事前アンケートでは、240名以上の卒業生からご意見をいただきました。

当日は50名以上の卒業生が参加し、講演や意見交換会を通じて交流を深めました。学科長による卒後教育とキャリア形成をテーマとした講演に加え、卒業生2名から臨床現場での教育実践やキャリア形成の経験談が紹介されました。意見交換会では、参加者が職種や経験年数ごとにグループに分かれ、卒後教育に関する現状や課題について活発に意見を交わしました。「自分の施設や状況に活かせる内容が多かった」「他の環境を知ることが刺激を受けた」といった感想が寄せられ、交流の場として有意義であったことが窺えました。

終了後のアンケートでは、「先輩方と同じ境遇の仲間と悩みを共有できた」「日頃の業務に対するヒントを得られた」など、肯定的な感想を多くいただきました。今回得られたご意見をもとに、リハ学科では卒業生のニーズに応じた卒後教育のさらなる充実に努めてまいります。



ご協力・ご参加いただいた卒業生の皆様に心より感謝申し上げます。

サークル活動について

千葉県立保健医療大学では、学年学科専攻を超えたサークル活動が行われています。本大学には全16団体があり、バドミントンやバレー、陸上などのスポーツサークルからボランティアサークル、食育活動や他大学との交流のあるサークルなど医療や健康に関わるサークルまで幅広い活動をしています。

この中でも学生会はサークルの1つであり、その他のサークルや学生の意見等をまとめたり、大学祭「いずみ祭」の運営をしたりと、学生の中心として活動を行います。今年度はいずみ祭にフォーカスを当て、外ステージでのお笑いライブや軽音サークル・手話サークル発表の開催、サークルや学科・学生グループによる模擬店などをパワーアップしたり、学生会公式 SNS での情報発信、地域住民や飲食店等へのポスター配布をしたりと、昨年度よりも外部への発信や告知を実施し、盛大に開催しました。来場者数や学生スタッフの増加もでき、学生会でしかできない活動を行うことが出来ました。



このほかにも、地域のイベントには食育サークルである「ちば食育応援隊」が出向き、食事の大切さを子どもたちに伝える活動を行ったり、ボランティアサークル「PANZY_z」は学内で学生に向けてボランティアの案内を発信し、誰もが気軽に参加できるような取り組みをしたりと少人数の大学だからこそ充実した濃い経験ができるのは千葉県立保健医療大学のサークルの特長です。

